

# ひびきあい

## 本番に強い「新田の子」を目指して

校長 岡田 克己



高学年になると、学校全体を動かす責任ある役割をやらなければならないことがあります。みんなの前に立ったり、みんなに分かるように説明したりと、いろいろな場面で堂々と話をしなくてはいけないことがあります。そんな時、大丈夫かなと思っていた子も結構しっかりと役をこなします。本番に強い「新田の子」。私は、あえてそう思いたいです。

\*\*\* \*\*

今回、国際平和スピーチコンテストに出場した佐藤菜々子さん。「世界中の笑顔」という題でスピーチをしました。「私は、少しくらいいやなことがあっても、いつも笑顔で生活している。私の笑顔で世界中の人を明るくしたい」という内容でした。自らの体験を振り返り思ったことを述べ、自分がこれからも続けていこうと語ったスピーチでした。地に足のついたよい提案でしたが、スピーチはそのよい内容を豊かに聞き手に伝えることが求められます。落ち着いて問題提起し、微笑みをもって相手に語りかけ、賛同を得る必要があります。わずか3分で聞き手を魅了しなければなりません。

ずいぶんと練習したことでしょう。おうちの方に何うと、時計とにらめっこしながら何度も何度も繰り返し練習したそうです。制限時間一杯を使い切り、思いのたけを述べることができました。

\*\*\* \*\*

現代の子は「自己主張が強い」と言われています。でも、面と向かって正しいことを述べることができるかと言えば、なかなか難しいようです。誰かの言うことの尻馬に乗って「そうだそうだ」とその他大勢のように言うことはできても、たった一人で言うべきことを言うのは苦手なようです。どの学校でも、文句は言うけどきちんとした意見を述べる子がいらないという実態があります。現代っ子の一般的な子どもたちの傾向のように思えますが、実は違うのではないかと言うのが私の見解です。言うべきときにしっかり言える子に育てるのは大人の役目だと思っています。そのためには、やはり『鍛える』ことが必要なのです。何を言いたいのかよく整理し伝わるように構成し、声の出し方や間の取り方も考えて喋る必要があります。そのあたりをしっかりと鍛えてあげれば、子どもたちは案外堂々と自分の考えたことを語るができるのです。

\*\*\* \*\*

新田小学校では、〈はっきりと・しっかりと話す〉ことを粘り強く指導していこうと思っています。幸い、高学年の児童はかなり、きちんと言うべき時に言うことの大切さを意識してきています。全校の前で臆することなく、メモも見ずに話すことができる子が多いではありませんか。彼らは、「意外と」本番に強いのです。私は、この学校に来た時から、薄々そのことに気づいていました。この特性を伸ばしていけたらいいなと思っていました。

そこで、先生たちをお願いして、「はっきり・しっかりと話すこと」と「恥ずかしくても言いたくなくても、言わなければならないこともある」とことについて、指導してほしいと言ってきました。やがて指導が実を結び、名実ともに『本番に強い新田の子』が実現することを夢見ています。個人差はありますが、それが当たり前になることが、「校風をつくる」というものなのでしょう。

